

Q. 子どもの遊び場が欲しい。屋内施設、公園などをもっと増やして欲しい。動物のいる牧場のようなところでもよい。（東広島のカドーレなどは食べるところもあるし、大勢の人で賑わってる。三次市の森のポッケなども。そちらは直売所やパン屋さん、レストラン、美術館もすぐ近く）【1/28 意見】

A. 多く聞くご意見で、今現在では田んぼアート予定地を活用したいと考えています。他市町のいいところを吸収し、他市町とは重複しないジャンルで整備できれば、近隣市町から遊びに来てもらえるものになると思います。

大きな費用が掛かるのですが、田んぼアートの展望台よりは安価になる予定です。内容については、市民モニター制度を通じて意見収集を試みようと思います。

Q. 町に小児科が無いので困っています。小児科救急も必要です。【1/28 意見】

A. 近年県内では50%以上の市町の産婦人科が無くなっている状況となっています。#8000（小児救急医療電話相談）で19時から翌8時まで看護師が相談に応じます。明らかな緊急を要する場合は、あらかじめ電話をしたうえで、県指定の三次中央病院・安佐市民病院・舟入病院で夜間救急の対応を受けることができます。

（一社）広島県助産師会と連携して、以下のサポートを拡充して行っています。

1	産前・産後サポート	訪問介護事業所のヘルパーを派遣し、産前と産後の家事援助、育児支援を行う
2	産後ケア（宿泊・通所）	助産院に宿泊または通所、助産師等が出産直後の母親の心身ケア、相談、指導

Q. 来場者の質問：病院が難しいのであれば、保健師や助産師が自宅へ夜間に駆けつけてくれる体制はできますか？

A. 出産間近になった人を病院の近くへ入居できるものも検討していきたいです。家族で移動や家族の介護など様々なパターンがあるので、色々なパターンを検討していきたいです。

Q. 広島市や三次市など、十分に通勤圏内。ただ、わざわざ居住地として安芸高田市を選ぶ特色・インパクトが無い。子育て、教育に関して、市政として力を入れる事で“いい環境”で子供を育てたい子育て世代を呼び込む事が出来るのではないかと個人的には思うのですが、市長のご意見を伺いたいです。【1/28 意見】

A. 安芸高田市の特色や強みを見つけ出していかななくてはなりません。小学校、中学校、高等学校が横につながり、教員レベルの向上、生徒の学力向上を目指すような一体的な特色・強みを生み出していける仕組みを整えるために検討します。

Q. 市長の考える「安芸高田市での子育ての課題」は何ですか？安芸高田市で子育てしたいと思いますか？ 市政を引っ張るトップの思いと、安芸高田市で子育てしている人の思いとが、同じ方向を見ているのか知るため、聞いてみたいです。

A. この町が気に入っているのも、戻ってきました。ただ、まだまだ課題があります。私自身も小学校、中学校を振り返ってみれば、もうちょっと何かあるのではないかと小さいころから思っていたので、何とかしたいなと思っているのが現状です。

Q. 地域全体で子どもを見守り育てるまちで子育てしたい。都市より安芸高田市はそれに近付けやすいまちだと思う。赤ちゃんからお年寄りまで多世代が自由に交流できる場が作れないか？全世代向けプレイルーム的な。常設でなく定期開催でも良いが、ちょっとしたイベントもあると来やすい。もちろん、ハイハイも可能なカーペット等の会場で。

A. いろいろな世代で交流する場は今まで実施していないのが現状です。平成 31 年度から保育所の園庭を開放する（地域子育て支援センター）など、新たな試みも始めております。このご質問でご提案いただき、取り組んでみたいと感じていますので、今後検討していきたいと思っております。

Q. 全国的に自然保育に関心を寄せる保護者が増えている。鳥取県智頭町の森のようちえん「まるたんぼう」を目指して移住者が集まっているという例もある。自然豊かな安芸高田で子育てしたい！と思えるような仕掛けとして、自然保育を取り入れた特徴的な運営をする園があってほしいと願うが、市長のお考えを聞かせてください。

A. この「まるたんぼう」の設立の背景である、地域のお父さん、お母さんが発起人なのが素晴らしいと感じています。市民主体の活動に取り組みたいとお考えの地域がありましたら、市にご提案いただければ個別にご相談させていただきたいと思います。

Q. 市内に産婦人科がなくなった事が残念です！正直次の子供を考えなくなりました。最寄りの病院までは距離もある為破水したらなど考えると怖かった。地域によっては当然のように近くの総合病院しか選択肢のない現状ではこの地域で妊娠にリスクを感じる。

A. 現時点で産婦人科を再建するのはかなり難しいです。費用面での問題が一番ですが、市民の覚悟によっては実現することは不可能ではありません。(他の事業を中止すれば)ただし、子どもの人数はどんどん減る傾向なので、将来の財政の負担になる可能性が高いです。市民の意見が多数を占めた場合は、そのニーズにお応えします。

Q. 子供にとって学校は小さな社会です。子供たちには多くの経験をさせたいと思います。そのためには学校の統合も進学のための転出も必要かも知れません。でも、「いつかは安芸高田のために。」「第二の人生は安芸高田で」「休日は安芸高田で」と何らかの形で安芸高田に関わってくれる子供たちを育てること必要ではないでしょうか。

A. 子供たちが大人になってから自分の人生をどう評価するによろと思います。子どもたちが大人になって「やっぱりよかったな」と思える材料を身につけさせてあげたいと思います。その一つが教育、学力なのではと考えています。

Q. 多世代交流をする場所があるといい。子供の教育面、社会性が身につく高齢者は生きがい、認知症予防などにもいいのではないか。イベント的なものでなく空き家などを赤ちゃん～高齢者がいつでも集える場所として活用することはできないか。働いているときは思わなかったが出かける場所があるのはありがたい。吉田にしか室内で遊ぶところがないので

A. 都市と田舎を比較したとき、田舎の方が交流の機会が多いのではないかと思います。ただ、そこに関われる機会が少ないのではと思いますので、皆さんが参加できる環境を行政としても考えていきたいと思っています。これと併せて多文化共生（市内在住の外国人の皆様）も含めて考えたいと考えています。

Q. 安芸高田市の目指す「子育て」の姿は、どのような姿だと考えているか(どのような環境にしたいと考えているか)? また、そのための具体的なビジョン・施策案はあるか?

A. 「選択と集中」が大切と考えます。学校統合、強化、英語教育（学習法：5ラウンド）に力をいれていきたいです。

Q. 広報あきたかたをいつも楽しみに読ませていただいておりますが、今月号のように特徴のある子どもたちの学びや子どもたちの作品（川柳や習字、作文など）など教育関連記事が毎号か隔号で紹介されたらいいと思う。生き生きした子供たちが主人公になる安芸高田の教育、開かれた学校をもっと広報したらいいと思う。

A. まさに先週広報担当と協議をしました。子どもや家族を主人公とした特集や、誕生日の新聞を掲載するなど、長く保存される特徴を生かしてフォーカスされた子どもさんが将来も見ることができ、生まれた当時の様子が分かるような活用方法も面白いと思います。今後も皆様からたくさんアイデアをたくさんお寄せいただきたいと思います。

Q. 保育園によっては、連絡網が昔ながらの電話で行われています。保護者の名前と電話番号が書いてある紙が配布されていて、紛失した場合個人情報の流出になる。LINEなどで一斉送信した方が早いし、誰が見て誰が見てないかもわかる。職員さんの効率も保護者の負担も軽くなると思う。【1/28 意見】

A. 2月から小学校にも導入している連絡網アプリ「すぐーる」を使用できるよう準備しています。現在は試行期間ですが、導入後は一つのアプリで、保育所、児童クラブ、小学校全てで利用できるようになります。